

要 望 事 項

会派名 新風ごてんば

事 業 名	内 容 説 明
ひとり親家庭等日常生活 支援事業	日本のひとり親世帯は、物価高を受けて、より厳しい生活を強いられている。厳しいのは経済的資源だけではなく、時間的な資源もふたり親世帯と比較して大きな差がある。6歳未満の子どもがいる有業の親の育児時間を比較すると顕著である。総務省「令和3年社会生活基礎調査」2022年によると、ふたり親（共働き）世帯の育児・家事の平均時間（平日）が242分（妻199分&夫43分）となっているのに対し、ひとり親世帯の母親は87分しかない。年度のうち3回まで（1回述べ2時間）、1回あたり300円の費用負担（市民税非課税世帯は無料）、他の制度（障がいや介護等）のヘルパーを利用してない世帯を条件に、家庭生活支援員を派遣して家事（食事の準備・後片付け、住居の掃除、生活必需品等の買い物、洗濯等）をお手伝いする事業の実施を要望する。
飼い猫不妊・去勢手術費 補助金	猫は、発情期になると家の中でもマーキングや攻撃的行動をすることがある。マーキング等の発情行動を覚えてしまうと、避妊手術を実施しても悪癖が抜けるとは限らないため、飼育放棄のリスクが高くなる。動物病院は、はじめての発情を迎える直前に避妊手術実施を推奨する傾向がある。避妊手術は、生殖器系の病気の予防をできる利点も大きい。乳腺腫瘍や精巣腫瘍のリスクを軽減することが可能である。また、猫エイズなどの感染症の発生率低下にもつながる。猫の適正な保護管理により動物愛護を図るため、飼い猫の生殖機能を処置（雄猫の精巣、雌猫の卵巣を摘出等）する御殿場市民に対し、1匹につき手術費用の2分の1以内かつ最高6,000円の補助を要望する。
民間活力を活用した更なる子育て支援の拡充 （相談体制の強化）	本市では「真の子育て支援日本一を掲げた活力あるやさしい福祉のまちづくり」を1つの柱として取り組んでいくとしている。実際、本市の子育て支援の取り組みは大変充実してきている。広報ごてんば令和2年10月20日号に合わせリーフレット「御殿場市子育てコンシェルジュ」として、本市の子育て支援施策は一覧化され全戸に配布するなど広報活動にも力を入れてきた。その中で、転入・転出が多いとされている本市において、様々な施策が本当に必要としている子育てされている方々へ届くように、また、子育て支援を求めている対象者の方々に、気軽に支援を受けてもらえる体制を構築していく必要がある。

要 望 事 項

会派名 新風ごてんば

事 業 名	内 容 説 明
<p>人口減少対策 (公共交通機関の改善)</p>	<p>昨年末、2市1町行政懇談会「若者の意識調査」で地元6校の高校生にオンラインアンケートを行い、その中で39%の学生から生まれ育った地域で住み続けたくないとの回答。理由の1つとして交通の利便性が悪いとあった。</p> <p>人口減少対策プロジェクトTの調査結果から18・22歳、若い30歳までの若者の転出が多く進学・就職が理由と判明している。東京都心まで一本で通勤通学ができる公共交通機関（電車）の整備ができれば、転出する若者流出を防ぐことができ、また、東京都心からその逆転現象が起きると考える。住みよさランキング県内トップでありながら転出超過をしている本市の人口流出のカギとなると考え、公共交通機関（電車）の改善を提案する。</p>
<p>医師確保対策の促進</p>	<p>救急活動において、出動した救急車が搬送先の病院が決まらず、現場に長時間滞在しているのを見かける。また、病院の待ち時間が長時間に及ぶことがある。その原因の一因として医師不足が上げられる。県は、医学修学研修資金利用医師が増えていることから、県東部地域の病院においてキャリア形成プログラムを用意することが重要としており、指導医を確保する病院の体制を整える必要があるとしている。</p> <p>本市の指導医を確保する病院の体制整備など抜本的な医師確保の取り組みの促進を要望する。</p>